高等学校の修学旅行 ―最新リポート―

社会や自然と向き合う中で

湘南学園高等学校
北海道・他3方面　4泊5日
12年10月　実施

神奈川県藤沢市の湘南学園高等学校（山田明彦校長）は、生徒の意見を大事にし、生徒主体で行事を進めている。体育祭や学園祭、合唱コンクールなどの大きな行事は、生徒の代表者によってそれぞれ実行委員会が組織され、各実行委員会が企画を考えて運営する。教員は生徒の行動を監視しながら補助するだけだ。

高校3年間で唯一の旅行行事である2年時の研修旅行も同様だ。昨年は、旅行委員の生徒たちが8コースを企画し、それを2学年全生徒の前でプレゼンテーション。投票で「北海道」「関西・南紀」「南九州」「沖縄」の4コースが決まった。研修旅行はここ数年、4コースが設定されていて、生徒たちはその中から自分の行きたいコースを選ぶ。

生徒も迎える側も盛り上がった標津町の歓迎の太鼓

植田卓真教諭

旅行委員の生徒が自由に旅行コースを企画するとはいっても、研修旅行である以上、学びの要素が必須であり重要だ。では、同校が研修旅行に求める学びとは何か。

昨年の研修旅行を担当した植田卓真教諭は「都会の生徒なので、広々とした地域で営まれる農業や漁業などに触れる機会は多くはない。それを実際に見たり、一緒にやったりして、その人たちの仕事に対する思い入れとかを生徒が肌で感じてもらうことをポイントにした」と明かす。

民泊先の酪農家庭で

荷揚げ見学

乗馬の体験

仕事に対する思い入れ 共に働き肌で感じ取る

昨年の研修旅行は10月22～26日に実施した。2年生全生徒177人のうち、男子33人、女子13人の計46人が参加した北海道コースでの研修の場面を見てみよう。

北海道コースは、毎年の4コースに必ず含まれる定番の旅行先だ。昨年は札幌や函館など有名な観光地は敢えてはずし、観光ではあまり行かない道東に旅行委員の生徒がスポットを当てた。研修内容は漁業や農業の体験のほか、乗馬やカヌーなどで北海道ならではの自然に触れるというもの。

午後は、標津町の名産と言えるサケの水族館「標津サーモン科学館」を見学し、宿泊ホテルでくつろいだ後、夕刻、標津町民による歓迎会に参加。「町長も来てあいさつしてくれて、太鼓の演奏もあり、温かいおもてなしがあった。生徒たちは一緒に太鼓を叩かせてもらったり、写真を一緒に撮ったりして、地域の人との新たな出会いを楽しんでいた」（植田教諭）。

会場では夕食として北海道の郷土料理「チャンチャン焼き」を味わった。

翌3日目は早朝5時から漁港で荷揚げの見学。この日の午前中に行う「新巻鮭作り」や「イクラ作り」の体験学習の予備知識として生かした。

体験学習は生徒を2グループに分けて実施。新巻鮭作り体験は、生徒一人が1匹のサケを包丁でさばき、内臓を取り出し、洗って塩をまぶすまでの作業をこなした。「実は生徒がやった後にもう少し作業があるというが、生徒には四苦八苦しながら最初から最後まで自分がやりきった後の喜びがある」（植田教諭）。イクラ作り体験も初めての作業を標津町の人に教えてもらいながら進めた。

この日は民泊。生徒は2～6人のグループに分かれ、標津町と隣の別海町にまたがって15家庭に泊まる。どの家庭も酪農家で、午後2時頃から翌日の10時頃まで、搾乳や牛舎の掃除などその家庭の事情に応じて仕事を手伝った。

同校では、民泊を学習の機会として重視しており、4コースのうち関西・南紀コース以外はすべて組み入れた。「生徒の多くは、自分が普段やっていないことをその家族の人に教えてもらいながら一緒にやったりして、自分のいい体験になったと前向きにとらえている。終わった後に年賀状をやりとりしたり、春休みなどに遊びに行ったりする生徒もいる」と植田教諭。

新巻鮭作り

アイヌ文化にも触れた

また、北海道コースでは、ボート、カヌー、乗馬に分かれての自然体験を行ったほか、地元の歴史を学ぶ「博物館網走監獄」や世界自然遺産の知床を観る「知床クルーズ」、アイヌ文化を知る集落「阿寒湖アイヌコタン」なども行程に入れた。

植田教諭は「北海道の産業や自然などを学びながら、標津町の人には太鼓の演奏で出迎えてもらったり、民泊では家族の人と一緒に歌を歌ったり、そこで出会った人々と温かなつながりが持てた」と研修旅行の成果を語る。「今後も旅をした先々の地域で出会う人々が必ずいる。生徒たちにはそこで出会った人とのつながりを大切にしてもらいたい」と考えている。

長崎西高等学校
長崎県立
岩手方面　3泊4日
12年12月　実施

東日本一帯に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。その影響で震災以降現在に至るまで、西日本から東北地方への修学旅行は減少したままの状況が続いている。一方で、「生徒の心に深く刻まれる体験を」と、新たに東北へ旅行した学校がある。自らの行動を自らの意思で律しようという精神、「自律」を校訓に掲げ、長崎県下有数の伝統校、進学校として幾多の人材を輩出してきた長崎県立長崎西高等学校（田川祐治学校長）だ。

同校は昨年12月、東日本大震災の被災地である岩手県大槌町で、復興ボランティア活動などを組み込んだ修学旅行を実施した。旅行日程は、1日目が長崎から空路で東京・羽田に入り、バスで宿泊地の岩手・花巻温泉に移動。2日目に被災地の岩手県大槌町、釜石市でのボランティア活動と被災地視察、学校訪問を行い、3日目は世界文化遺産である同県平泉の中尊寺と栃木県の日光東照宮で研修。4日目は千葉の東京ディズニーリゾートでの研修を経て空路で帰着するというものだ。

釘島正智教諭

被災地の今を直接体験 復興支援へ思い新たに

実はこの旅程、もともと計画されていたものではない。同校では例年、中国への修学旅行を実施しており、昨年も12月上旬に上海、北京を訪問する予定だった。しかし、尖閣諸島の領有権問題により中国国内で反日デモなどが頻発している状況を受け、生徒の安全確保などを理由に、急きょ行き先変更を決定。「国内での修学旅行先として考えられるベストの目的地を」と検討する中で決まったのが、岩手県の被災地視察を盛り込んだ、東北への修学旅行だった。

「被災地の現状を直接見聞し、さらに支援活動を行うことで、生涯心に残る体験ができるはず。多感な高校生の時期だからこそ、被災地で研修することで何かを感じて帰ってくれると考えた」と東北への修学旅行に込めた思いを語るのは、引率した同校第2学年主任の釘島正智教諭。同校では被災地に対する募金活動などを積極的に行うなど、日頃から被災地への関心は高かったこともあり「東北方面への変更に対する生徒の反応は非常に良かった」と釘島教諭は振り返る。

旅行の核となる2日目の被災地研修の内容は、担当旅行会社の現地支店や地元行政、NPO団体などの協力で実現した。予定では地元小中学生が自主的に避難して犠牲者を出さなかった「釜石の奇跡」と呼ばれる出来事の追体験を行う予定だったが、雨天で断念し、甚大な被害を受けた鵜住居地区の視察のみ実施。午後は、津波の被害に遭った浪板観光ホテルで、今夏の営業再開に向けた清掃ボランティア活動を行った。

生徒たちは旅行前の事前指導で、被災地でのボランティア活動での心構えなどを学んだ上で参加した。「多くの方が亡くなり、傷つきながらも、懸命に生きておられる場所での活動。生徒にはマナーを守り真摯な姿勢で取り組まなければならないと指導した」（釘島教諭）。生徒たちは事前指導で浪板観光ホテルの被災状況なども聞いていたが、実際に現場に立ち、自然の持つ圧倒的な破壊力を目にして、さまざまな衝撃を受けたようだ。犠牲者へ花を手向けると、皆引き締まった顔で清掃活動に取り組んだ。

平泉などの世界遺産も見学

宿泊先ホテルで郷土芸能鑑賞

大槌町立大槌小中学校では、学校長による津波被害についての講話を聴講。募金で購入したノート「西高ノート」を寄贈したほか、町へも募金を手渡した。家族や知人を亡くした児童、生徒も多い中、歓迎の横断幕と元気な笑顔で出迎えられたことに、自らが励まされたり、復興のために自分ができることを改めて考えた生徒は数多い。

修学旅行後にまとめた参加生徒の感想文集には「東北の皆さん全員が温かく迎え入れてくれて、私たちの方がパワーをもらったように思えるほどだったのに、こちらからはほとんど何もできなかった。遠い長崎の地からでも恩返しをしたい」「たいしたこともできない高校生308人が訪れただけで、何度も『ありがとうございます』と声をかけられた。被災地のことを忘れないでほしいとの強い思いを感じた」など、被災地に足を運んだからこそ湧き出た思いが並ぶ。また、被災地の様子や地元の復興への思いを、地元・長崎の原爆の日や原爆被害からの復興に重ね合わせて見た生徒も多かったようだ。

釘島教諭は今回の修学旅行について、「重要な史跡を訪れることで歴史についての理解を深めるとともに、国を愛する気持ちを育てる」「東日本大震災被災地の視察とボランティア活動を通して防災意識を高め、奉仕の精神を育む」「集団生活を通して友情を深め、自律と協調の精神を養う」の3つの教育目的を十分に果たしたと総括。また急な変更や、現地支店などと連携し、ゼロからのプラン作成などに迅速に対応した担当旅行会社についても高く評価する。

「修学旅行は、教育活動の一環であり、研修を核に据えた旅行であるべき。生徒の知的好奇心を満たしつつ、さらに感受性豊かな生徒の心に、一生残るものであることが理想」と釘島教諭。来年以降の旅行先は、今回の経験も踏まえつつ適地を検討する考えだ。

浪板観光ホテルでの献花

浪板観光ホテルでの清掃ボランティア

鵜住居地区で被害状況の説明を受ける

誘客促進の起爆剤！地元の魅力をPR！

あなたの街のハロートラベルつくりませんか

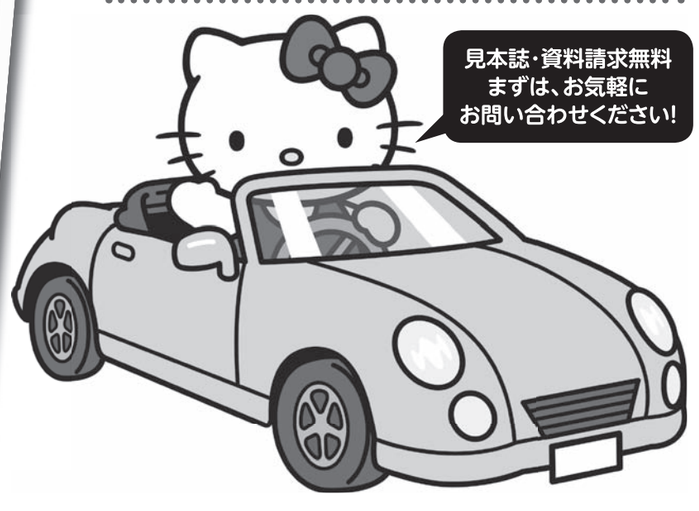
ハローキティと地域のゆるキャラをコラボさせ
キャラの活性化・育成支援も可能です。

ハロートラベルの特徴
◆ハローキティの表紙で抜群のアイキャッチ効果！
まず冊子を手に取ってもらうことが第一！
◆便利なポケットサイズ♪小さなバッグに入れても
持ち運びできるので保存性も上がります。
◆効果的な配布ポイントで観光客を誘致します♪
◆見やすいカテゴリー別カタログとクーポンや
スタンプラリーをつけることにより観光客周遊を促進！

↑原寸サイズ　●タテ148mm×ヨコ102mmのパスポートサイズ

利用観光客の声
◆キティちゃんの表紙が目に飛び込んできて
思わず手に取ってしまいました。
◆コンパクトサイズで持ち運びもラクラク♪
ちょうどいい大きさだと思います。
◆旅先でどこに行ったらいいか迷った時に
たいへん参考になりました。
クーポンが付いてるのもお得で嬉しい。

各自治体様のご要望やコンセプトにより合わせ、メリットや効果のある媒体の構築と運用をご提供させていただきます。ご予算等もご相談に応じます。市町村・都道府県・広域観光圏まで対応致します。



●発行／観光経済新聞社　●お問合せ・企画制作／株式会社 元裕社 TEL 03-5623-6811　ハロートラベルは商標登録済　©1976, 2013 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. G532540